※令和４年度以降入学生用

学校番号	3020

令和５年度　商業科

教科	商業	科目	情報処理	単位数	３単位	年次	１年次
使用教科書	『最新情報処理　Advanced Computing』　（実教出版）						
副教材等	「全国商業高等学校協会主催情報処理検定模擬問題集 プログラミング２級」（実教出版） 「学習と検定　全商情報処理検定テキスト　２級プログラミング部門」（実教出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

ビジネスを学ぶ専門高校生としてふさわしい高度な知識と技術を習得し、情報の活用とそのモラルとマナーを学ぶ授業です。
ワープロ・表計算ソフト等のソフトウェア活用、インターネット活用、アルゴリズム、ビジネスにおける情報活用能力を身につけます。
２年次必修の「プログラミング」につながる科目です。学習の成果の測定指標として、１月に「全商情報処理検定プログラミング部門２級」を受験します。

２　学習の到達目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業において情報を適切に扱うために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。全商情報処理検定プログラミング部門２級相当の知識・技術を有し、資格を取得できる能力が身に付いていることを指標の一つとする。
(2)企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
(3)企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解し、関連する技術を身に付けている。全商情報処理検定プログラミング部門２級相当の知識・技術を有し、資格を取得できる能力が身に付いている。	企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	企業活動と情報処理・情報の集計と分析Ⅰ	コンピュータを利用した情報の処理や活用の重要性を理解する。 ICT 人材に求められる役割と身につけるべき能力の概要を理解する。 情報を取り扱う上で守るべき法規の必要性と，その概要を理解する。 基本的な操作や計算式及び関数について理解し，目的に応じて適切な表の作成する技術を身に付ける。	a: ビジネスと情報処理について理解し、基礎的な知識を身につけている。 b: 情報処理について課題を見出し、その解決に思考を深め、判断・表現する姿勢がみられる。 c: ビジネスと情報処理に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。	定期考査 小テスト 確認テスト 課題の提出 授業態度の観察	定期考査 小テスト 確認テスト 課題の提出 授業態度の観察	課題の提出 授業態度の観察 自己評価
	コンピュータシステムと情報通信ネットワーク	コンピュータの基本的な機能と構成を理解し，ハードウェアとソフトウェアの種類と機能について理解する 情報通信ネットワークを利用したビジネス情報の検索と活用方法について理解する。情報化社会に参画するために個人が身につけるべきセキュリティ管理の方法について理解する。	a: ビジネスと情報処理システム、ソフトウェアについて理解し、基礎的な知識を身につけている。 b: ビジネスと情報処理システム、ソフトウェアについて課題を見出し、その解決に思考を深め、判断・表現する姿勢がみられる。 c: ビジネスと情報処理システム、ソフトウェアについて関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。	定期考査 小テスト 確認テスト 課題の提出 授業態度の観察	定期考査 小テスト 確認テスト 課題の提出 授業態度の観察	課題の提出 授業態度の観察 自己評価
2学期	プログラミングとアルゴリズムⅠ 情報の集計と分析Ⅱ	情報の重要性を理解し，情報を分析して，傾向を把握する能力を身に付ける。 事象をモデル化し，シミュレーションを行う基礎的な技法及びアルゴリズムを考案する	a: 情報の集計と分析のための基礎的な知識を身につけている。 b: 情報の集計と分析のための課題を見出し、その解決に思考を深め、判断・表現する姿勢がみられる。 c: 情報の集計と分析について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。	定期考査 小テスト 確認テスト 課題の提出 授業態度の観察	定期考査 小テスト 確認テスト 課題の提出 授業態度の観察	課題の提出 授業態度の観察 自己評価

※令和４年度以降入学生用

	プログラミングとアルゴリズムⅡ	情報化社会に参画するために個人が身につけるべきセキュリティ管理の方法について理解する。 事象をモデル化し，シミュレーションを行う基礎的な技法及びアルゴリズムを考案する	a: 情報化社会におけるセキュリティ管理とプログラミングとアルゴリズムの基礎的な知識を身につけている。 b: プログラミングとアルゴリズムの課題を見出し、その解決に思考を深め、判断・表現する姿勢がみられる。 c: 情報化社会におけるセキュリティ管理とプログラミングとアルゴリズムついて関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。	定期考査 小テスト 確認テスト 課題の提出 授業態度の観察	定期考査 小テスト 確認テスト 課題の提出 授業態度の観察	課題の提出 授業態度の観察 自己評価
3学期	情報の管理と情報を活用した企業活動の改善	ロジックツリー,PPM分析などを活用した情報の整理及び PDCA サイクルによる企業活動の改善について理解する。	a: 情報の管理と情報を活用した企業活動の改善のための基礎的な知識を身につけている。 b: 情報の管理と情報を活用した企業活動の改善のための課題を見出し、その解決に思考を深め、判断・表現する姿勢がみられる。 c: 情報の管理と情報を活用した企業活動の改善ついて関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。	定期考査 小テスト 確認テスト 課題の提出 授業態度の観察	定期考査 小テスト 確認テスト 課題の提出 授業態度の観察	課題の提出 授業態度の観察 自己評価

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度